

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

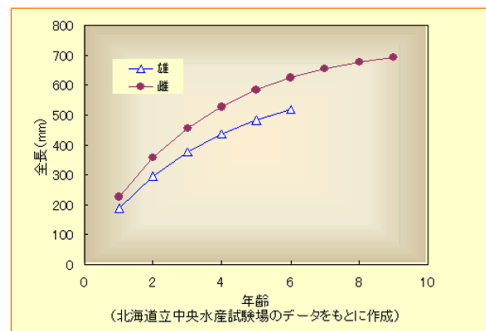
系群名 北海道系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学の特徴

寿命： 不明
成熟開始年齢： 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場： 6～8月、水深20～50mの浅海域
索餌期・索餌場： 不明
食性： 未成魚及び成魚の餌は魚類、エビ類、イカ類等であり、イカナゴを多食
捕食者： 詳細は不明

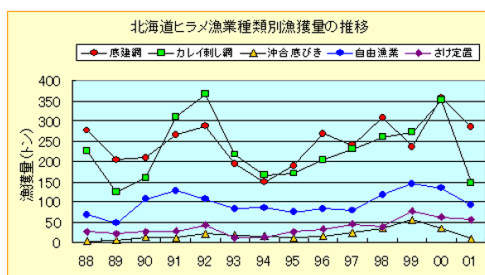
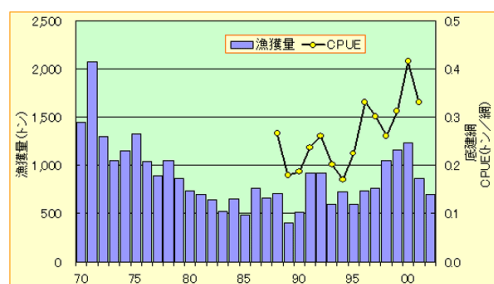


漁業の特徴

北海道沿岸域に分布するヒラメは主に日本海と津軽海峡において、定置網、刺し網、釣り、沖合い底びき網などで漁獲されている。漁獲量は6～7月に多く、10～12月にも増加する。6～7月は水深20～50mの海域で産卵群を、10～12月は水深50～120mの海域で索餌群を対象とする。

漁獲の動向

北海道沿岸海域におけるヒラメ漁獲量は、1963年の2,380トンを最高に急激に減少し、1980年代には480～730トンで推移してきたが、1989年に403トンと過去最低の漁獲量を記録した。1996年からは増加傾向を示し、2000年に1,280トンであったが、2001年には859トンに、2002年には700トン（暫定値）に減少した。最近2年間の漁獲量は減少傾向である。

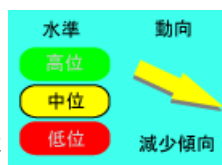


資源評価法

北海道沿岸域に分布するヒラメの生物学的パラメータは不明の点が多く、年齢別漁獲尾数も得られないため漁獲量の推移と聞き取り情報による資源状態から資源評価を行った。なお、試みとして、底建網漁業についてCPUEを算出し、資源評価の参考とした。

資源状態

漁獲されるヒラメについては、35～40cmの個体の比率が高い傾向にある。漁獲量は1998～2000年には増加しているが、2000～2002年には減少し、2000年以降、資源状態の低下があった可能性がある。ヒラメのCPUEを底建網について算出したところ、その値は漁獲量と似た変動傾向を示したことから、漁獲量の推移は概ね資源量の変動傾向を反映していると考えられる。なお、北海道ではヒラメの放流効果調査を行っており、今後これらの成果を蓄積し、添加効率の算出等に用いることにより、資源評価に生かされる。



管理方策

得られる情報が漁獲量のみであり、資源状態が中位ではあるが、減少と判断されることから、2004年のABCについては、 $ABClimit = 2001\text{年と}2002\text{年の}2\text{年間の平均漁獲量} \times 0.8$ 、 $ABCtarget = ABClimit \times 0.8$ とした。なお、全長35cm未満の個体を漁獲制限する資源管理協定を徹底、継続することにより資源量の増大を図る。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	624トン	0.8Cave2-yr	-	-
A B C target	499トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量から推定されるヒラメ北海道系群の資源水準は中位、動向は減少と判断される
- 底建網のCPUEは漁獲量と似た変動を示すことから、漁獲量の変動は概ね資源量の推移を反映していると考えられる

資源管理方策のまとめ

- 2004年のABCは2001年と2002年に引き続いて減少していることを配慮して設定
- 資源増大のため全長35cm未満の個体の漁獲制限を徹底

資源評価は毎年更新されます。